

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月9日

【四半期会計期間】 第15期第2四半期(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

【会社名】 株式会社マーベラスAQL
(旧会社名 株式会社マーベラスエンターテイメント)

【英訳名】 Marvelous AQL Inc.
(旧英訳名 Marvelous Entertainment Inc.)

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 許田周一

【本店の所在の場所】 東京都品川区東品川四丁目12番8号
品川シーサイドイーストタワー5階

【電話番号】 03-5769-7447

【事務連絡者氏名】 取締役 山角信行

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区東品川四丁目12番8号
品川シーサイドイーストタワー5階

【電話番号】 03-5769-7447

【事務連絡者氏名】 取締役 山角信行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 平成23年6月23日開催の第14回定時株主総会の決議により、平成23年10月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第14期 第2四半期連結 累計期間	第15期 第2四半期連結 累計期間	第14期
会計期間		自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高	(千円)	4,564,886	2,812,478	6,965,506
経常利益	(千円)	429,552	13,020	147,898
四半期(当期)純利益	(千円)	421,683	7,125	131,249
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	421,735	10,632	131,992
純資産額	(千円)	617,728	335,787	325,155
総資産額	(千円)	4,533,512	3,910,851	4,092,464
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	3,456.43	58.41	1,075.82
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	13.6	8.6	7.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	866,717	579,826	1,172,414
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	16,850	12,221	58,050
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	155,332	79,471	237,464
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,602,665	1,237,681	1,749,836

回次		第14期 第2四半期 連結会計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又 は四半期純損失金額()	(円)	1,919.22	19.79

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため記載しておりません。

4. 第14期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

（デジタルコンテンツ事業）

連結子会社であった Marvelous Entertainment USA, Inc. については、平成23年6月30日付で全株式を譲渡したため、連結の範囲から除いております。

この結果、平成23年9月30日現在では、当社グループは、当社及び子会社1社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年9月30日）における当社グループの連結業績は、売上高2,812百万円（前年同期比38.4%減）、営業利益30百万円（前年同期比93.4%減）、経常利益13百万円（前年同期比97.0%減）、第2四半期純利益7百万円（前年同期比98.3%減）となりました。

売上高におきましては、音楽映像事業において発売タイトル数が減少したことや、連結子会社である株式会社アートランドのアニメーションの企画・制作事業を平成22年12月1日付で譲渡したこと、デジタルコンテンツ事業において新作ゲームソフトの販売本数が減少したこと、舞台公演事業において観客動員数が減少したこと等により、前年同期と比較して減少いたしました。利益面におきましては、売上減による利益減に加え、デジタルコンテンツ事業において一部タイトルの開発中止を決定し、中止に係る費用229百万円を売上原価に計上したこと等により、前年同期と比較して減少いたしました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

音楽映像事業

音楽映像事業におきましては、アニメーションを中心とした優良コンテンツの音楽・映像商品（パッケージソフト）化とコンテンツの企画立案から二次利用までを行うマスターライセンス（映像著作権）保有作品の製作を行っております。

まず、音楽分野におきまして、平成23年上半年（平成23年1月～平成23年6月）における国内音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）の総生産金額は、前年同期比6.8%増の1,405億円となりました。有料音楽配信売上高は前年同期比12.6%減の379億円となったものの、音楽市場全体では前年同期比2.0%増の1,785億円となり、3年振りに前年同期を上回りました。（社団法人 日本レコード協会調べ）

このような状況下、当分野におきましては、「プリキュア」シリーズの企画楽曲商品や、ヴィジュアル系アーティスト「vistlip」の音楽商品等を発売し、堅調に推移いたしました。

次に、映像分野におきまして、平成23年上半年（平成23年1月～平成23年6月）における国内映像ソフト市場規模は、DVD市場が前年同期比0.5%減の1,012億円、ブルーレイ市場が前年同期比38.3%増の244億円、映像ソフト市場全体では前年同期比5.3%増の1,256億円となり、5年振りに前年同期を上回りました。（社団法人 日本映像ソフト協会調べ）

このような状況下、当分野におきましては、前期より引き続き、「ミュージカル『テニスの王子様』」関連DVD、「家庭教師ヒットマンREBORN!」、「ハートキャッチプリキュア!」、「遊戯王5D's」等

を映像商品化したほか、新たに「スイートプリキュア」、「俺たちに翼はない」、「星空へ架かる橋」、「猫神やおよろず」、平成23年3月に劇場公開された「映画プリキュアオールスターズDX3 未来にとどけ！世界をつなぐ虹色の花」等の映像商品化を行いました。

売上高におきましては、「家庭教師ヒットマンREBORN!」のTV放送が平成22年9月に終了したため、前年同期と比較してパッケージの発売タイトル数が減少したことや、「ミュージカル『テニスの王子様』」関連DVDの商品受注が前年同期と比較して軟調に推移したこと、連結子会社株式会社アートランドのアニメーション企画・制作事業を平成22年12月1日付で譲渡したこと等により、前年同期と比較して減少いたしました。利益面におきましては、売上減に伴い減益となったものの、映像コンテンツへの投資効率の改善や広告宣伝費の圧縮が進んだこと等により、利益率につきましては前年同期と比較して向上いたしました。

この結果、売上高は1,186百万円（前年同期比45.2%減）、セグメント利益は346百万円（前年同期比20.9%減）となりました。

デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業におきましては、家庭用ゲーム機向けゲームソフト及びオンラインゲームを中心としたデジタルエンターテインメントコンテンツの企画・開発・発売を行っております。

まず、パッケージ分野におきまして、平成23年上半期（平成23年1月～平成23年6月）における家庭用ゲーム市場規模は、ハード市場が前年同期比8.8%減の798億円、ソフト市場が前年同期比20.4%減の1,121億円となり、ハード市場、ソフト市場ともに前年同期を下回りました。（株式会社エンターブレイン調べ）

このような状況下、当分野におきましては、国内において、当社シリーズの新作「勇者30 SECOND（PSP）」、「NO MORE HEROES RED ZONE Edition（PS3）」、新規オリジナルタイトル「グランナイツヒストリー（PSP）」、「閃乱カグラ - 少女達の真影 -（ニンテンドー3DS）」等、新作7タイトルを発売いたしました（前年同期は新作5タイトル発売）。また、海外向けに「HARVEST MOON: The Tale of Two Towns（ニンテンドーDS・ニンテンドー3DS 北米向け/邦題：牧場物語 ふたごの村）」、「ZOO RESORT 3D（ニンテンドー3DS 欧州・北米向け/邦題：アニマルリゾート 動物園をつくろう!!）」、「REEL FISHING PARADISE 3D（ニンテンドー3DS 北米向け/邦題：Fish Eyes 3D）」等をライセンスアウトいたしました。

次に、オンライン分野におきましては、スマートフォンやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及を背景に、ユーザー同士のコミュニケーション機能を持つソーシャルゲーム市場が引き続き拡大し、ゲーム市場において存在感を増しております。

このような状況下、当分野におきましては、前期より引き続き「みんなで牧場物語（PCブラウザ）」、「ブラウザ一騎当千（PCブラウザ）」のサービスを行った他、新規タイトル「剣と魔法のログレス（PCブラウザ）」のクローズドテストを開始いたしました（平成23年10月5日よりオープンサービス中、実績計上は第3四半期より開始）。

売上高におきましては、パッケージ分野において、新規オリジナルタイトルの「グランナイツヒストリー（PSP）」が11万本を超えるヒットを記録した他、同じく新規オリジナルタイトルの「閃乱カグラ - 少女達の真影 -（ニンテンドー3DS）」も6万本を超える受注を獲得し好調に推移したものの、前年同期に当社主力シリーズの新作「牧場物語 ふたごの村（ニンテンドーDS）」の発売があったため、前年同期と比較して販売本数が減少し減収となりました。利益面におきましては、売上減による利益減に加え、今後の市場環境と将来の収支予測を鑑みて一部タイトルの開発中止を決定し、中止に係る費用229百万円

を売上原価に計上したこと等により減益となりました。

この結果、売上高は1,388百万円（前年同期比19.6%減）、セグメント利益は21百万円（前年同期比83.3%減）となりました。

舞台公演事業

舞台公演事業におきましては、漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした興行ビジネスを展開しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、平成23年1月から平成23年2月にかけて公演した「ミュージカル『テニスの王子様』青学vs不動峰」全44公演分、平成23年4月から平成23年5月にかけて公演した「ミュージカル『テニスの王子様』青学vs聖ルドルフ・山吹」全37公演分、合計81公演分の実績を計上いたしました（前年同期は43公演分の実績計上）。「ミュージカル『テニスの王子様』」の公演規模の縮小に加え、観客動員数が軟調に推移したことや震災により一部公演を中止したこと等により、減収減益となりました。

この結果、売上高は237百万円（前年同期比64.8%減）、セグメント損失は66百万円（前年同期はセグメント利益97百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産の部）

流動資産は前連結会計年度末に比べて10.0%減少し、3,257百万円となりました。これは主として、現金及び預金が512百万円減少したことなどによるものであります。

固定資産は前連結会計年度末に比べて37.6%増加し、653百万円となりました。これは主として、投資その他の資産が195百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて4.4%減少し、3,910百万円となりました。

（負債の部）

流動負債は前連結会計年度末に比べて4.4%減少し3,341百万円となりました。これは主として、その他の流動負債（未払金など）が238百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べて13.7%減少し、233百万円となりました。これは主として、長期借入金が36百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて5.1%減少し、3,575百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度に比べて3.3%増加し、335百万円となりました。これは利益剰余金が7百万円増加したためであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の状況は、前年同四半期連結累計期間末と比べ364百万円減少し、1,237百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、579百万円(前年同四半期連結累計期間に獲得した資金は866百万円)となりました。主に売上債権の増加額331百万円及びたな卸資産の増加額206百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、12百万円(前年同四半期連結累計期間に獲得した資金は16百万円)となりました。主に有形固定資産の取得による支出8百万円、無形固定資産の取得による支出3百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、79百万円(前年同四半期連結累計期間に使用した資金は155百万円)となりました。主に短期借入金の増加80百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000
計	300,000

(注) 平成23年6月23日開催の株主総会決議により、平成23年10月1日付で合併に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は600,000株増加し、900,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	123,380	535,931	東京証券取引所 (市場第二部)	当社は単元株制度を採用して おりません。
計	123,380	535,931		

(注) 1 提出日現在発行数の第2四半期会計期間末現在からの増加412,551株は、平成23年10月1日の株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェアとの合併の効力発生をもって消滅会社である株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェア株主に割り当て交付した新株式であります。
2 提出日現在発行数には、平成22年11月1日から四半期報告書を提出する日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年9月30日		123,380		1,128,472		1,129,991

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
中山 晴喜	東京都世田谷区	54,778	44.40
株式会社アミューズキャピタル インベストメント	東京都中央区銀座3丁目15-8	18,400	14.91
株式会社ポニーキャニオンエン タープライズ	東京都港区麻布台2丁目3番5号	1,600	1.30
株式会社マーベラスエンターテ イメント	東京都品川区東品川4丁目12番8号	1,380	1.12
松本 慶明	東京都港区	926	0.75
株式会社ムービック	東京都板橋区弥生町7-3	800	0.65
株式会社東北新社	東京都港区赤坂4丁目	800	0.65
菅井 達雄	東京都目黒区	763	0.62
青木 利則	神奈川県横浜市戸塚区	756	0.61
竹澤 登	大阪府大阪市東住吉区	550	0.45
計		80,753	65.45

(注) 平成23年6月23日開催の第14回定時株主総会の決議により、平成23年10月1日から会社名を株式会社マーベラスAQL(旧会社名 株式会社マーベラスエンターテイメント)に変更いたしました。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,380		
完全議決権株式(その他)	普通株式 122,000	122,000	
単元未満株式			
発行済株式総数	123,380		
総株主の議決権		122,000	

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社マーベラスエン ターテイメント	東京都品川区東品川4丁 目12番8号 品川シーサイドイースト タワー5階	1,380		1,380	1.11
計		1,380		1,380	1.11

(注) 平成23年6月23日開催の第14回定時株主総会の決議により、平成23年10月1日から会社名を株式会社マーベラスAQL(旧会社名 株式会社マーベラスエンターテイメント)に変更いたしました。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第14期 連結会計年度 新日本有限責任監査法人

第15期 第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間 有限責任 あずさ監査法人

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,749,836	1,237,681
売掛金	495,171	825,913
製品	3,926	2,772
仕掛品	165,593	64,929
映像コンテンツ	23,452	89,580
デジタルコンテンツ	1,034,192	915,858
原材料及び貯蔵品	23,493	22,203
その他	136,033	113,957
貸倒引当金	13,853	15,321
流動資産合計	3,617,845	3,257,575
固定資産		
有形固定資産	109,218	98,280
無形固定資産	22,883	17,041
投資その他の資産		
投資有価証券	254,515	451,759
その他	88,000	86,194
投資その他の資産合計	342,516	537,953
固定資産合計	474,619	653,275
資産合計	4,092,464	3,910,851
負債の部		
流動負債		
買掛金	306,208	271,627
短期借入金	1,520,000	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	30,500	67,100
未払印税	745,751	771,985
未払法人税等	7,908	5,140
賞与引当金	60,897	38,455
その他	824,947	586,784
流動負債合計	3,496,213	3,341,093
固定負債		
長期借入金	269,500	232,900
その他	1,596	1,070
固定負債合計	271,096	233,970
負債合計	3,767,309	3,575,063
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	1,129,991	1,129,991
利益剰余金	1,902,075	1,894,950
自己株式	27,726	27,726
株主資本合計	328,661	335,787
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,506	-
その他の包括利益累計額合計	3,506	-
純資産合計	325,155	335,787
負債純資産合計	4,092,464	3,910,851

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	4,564,886	2,812,478
売上原価	3,305,634	2,056,941
売上総利益	1,259,252	755,536
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	147,655	146,088
貸倒引当金繰入額	622	1,817
賞与引当金繰入額	36,625	38,455
広告宣伝費	311,426	196,062
その他	295,155	342,421
販売費及び一般管理費合計	791,485	724,845
営業利益	467,767	30,690
営業外収益		
受取手数料	1,200	1,901
貸倒引当金戻入額	-	350
その他	1,481	3,072
営業外収益合計	2,681	5,323
営業外費用		
支払利息	24,770	20,492
その他	16,125	2,500
営業外費用合計	40,895	22,993
経常利益	429,552	13,020
特別利益		
貸倒引当金戻入額	320	-
特別利益合計	320	-
特別損失		
固定資産売却損	1,776	-
固定資産除却損	1,230	-
関係会社株式売却損	-	3,103
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	3,118	-
特別損失合計	6,124	3,103
税金等調整前四半期純利益	423,748	9,916
法人税、住民税及び事業税	2,064	-
法人税等	-	2,791
少数株主損益調整前四半期純利益	421,683	7,125
少数株主利益	-	-
四半期純利益	421,683	7,125
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	51	3,506
その他の包括利益合計	51	3,506
四半期包括利益	421,735	10,632
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	421,735	10,632
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	423,748	9,916
減価償却費	36,682	29,076
映像コンテンツ償却額	361,224	164,496
賞与引当金の増減額(は減少)	6,567	22,441
貸倒引当金の増減額(は減少)	302	1,467
返品調整引当金の増減額(は減少)	1,660	-
受取利息及び受取配当金	18	44
支払利息	24,770	20,492
固定資産売却損益(は益)	1,776	-
固定資産除却損	1,230	-
関係会社株式売却損益(は益)	-	3,103
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,677	1,737
売上債権の増減額(は増加)	123,638	331,519
たな卸資産の増減額(は増加)	270,290	206,424
仕入債務の増減額(は減少)	132,501	34,520
未払金の増減額(は減少)	284,423	28,226
未払印税の増減額(は減少)	125,914	26,234
未払消費税等の増減額(は減少)	44,935	65,795
その他の流動資産の増減額(は増加)	98,076	18,544
その他の流動負債の増減額(は減少)	203,934	144,305
その他	1,226	69
小計	902,521	558,138
利息及び配当金の受取額	18	44
利息の支払額	31,236	17,051
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	4,586	4,681
営業活動によるキャッシュ・フロー	866,717	579,826
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,200	8,796
有形固定資産の売却による収入	6,465	-
無形固定資産の取得による支出	3,760	3,500
敷金及び保証金の回収による収入	16,045	-
貸付金の回収による収入	300	85
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,850	12,221
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	3,100,000	2,134,000
短期借入金の返済による支出	3,250,000	2,054,000
長期借入金の返済による支出	4,002	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,276	514
配当金の支払額	54	14
財務活動によるキャッシュ・フロー	155,332	79,471
現金及び現金同等物に係る換算差額	78	421
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	728,156	512,154
現金及び現金同等物の期首残高	874,509	1,749,836
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,602,665	1,237,681

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、連結子会社であった Marvelous Entertainment USA, Inc. については、平成23年6月30日付で全株式を譲渡したため、連結の範囲から除いております。

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(税金費用の計算方法の変更) 税金費用については、従来、原則的な方法により計算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。 これは当社及び連結子会社の四半期決算業務の一層の効率化を図り四半期決算における迅速性に対応するためであります。 なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(税金費用の計算) 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
(偶発債務) 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。 株式会社アニメーションスタジオ オ・アートランド 77,886千円	(偶発債務) 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。 株式会社アニメーションスタジオ オ・アートランド 70,655千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 1,602,665千円 現金及び現金同等物 1,602,665千円	1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 1,237,681千円 現金及び現金同等物 1,237,681千円

(株主資本等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	音楽映像事業	デジタルコン テンツ事業	舞台公演事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,164,257	1,726,163	674,465	4,564,886		4,564,886
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	2,164,257	1,726,163	674,465	4,564,886		4,564,886
セグメント利益	437,900	130,364	97,903	666,167	198,400	467,767

(注) 1 セグメント利益の調整額 198,400千円は、セグメント間取引消去2,850千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 201,250千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	音楽映像事業	デジタルコン テンツ事業	舞台公演事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,186,444	1,388,693	237,340	2,812,478		2,812,478
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	1,186,444	1,388,693	237,340	2,812,478		2,812,478
セグメント利益又は損失()	346,482	21,726	66,378	301,830	271,140	30,690

(注) 1 セグメント利益の調整額 271,140千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3,456円43銭	58円41銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	421,683	7,125
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	421,683	7,125
普通株式の期中平均株式数(株)	122,000	122,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

1. 株式会社A Qインタラクティブ及び株式会社ライブウェアとの合併

当社は、平成23年10月1日をもって、当社を存続会社、株式会社A Qインタラクティブ及び株式会社ライブウェアを消滅会社とする吸収合併をいたしました。

(1) 合併する相手会社の名称、主な事業の内容

名称	株式会社A Qインタラクティブ	株式会社ライブウェア
事業の内容	エンターテインメントコンテンツの企画・開発・販売	携帯電話向けコンテンツ企画・制作・運営

(2) 合併の目的

当社と株式会社A Qインタラクティブ及び株式会社ライブウェアが経営統合することにより、「マルチコンテンツ・マルチデバイス」を事業ドメインとして、エンターテインメントコンテンツの上流から下流までをカバーする強力なバリューチェーンが構築され、その結果、コンテンツの権利獲得能力強化、ゲーム・音楽・映像・ライブエンターテインメント等のコンテンツの多様化、コンテンツの内製化、膨大な顧客基盤の有効活用、多様なデバイス・多様なプラットフォームへの対応が可能となります。さらに、重複していた事業領域を統合し、経営資源を集中させることによって、企業価値の大きな向上が期待できるためであります。

(3) 合併の方法

当社を吸収合併存続会社とし、株式会社A Qインタラクティブ及び株式会社ライブウェアを吸収合併消滅会社とする吸収合併

(4) 合併後の会社の名称

株式会社マーベラスAQL

(5) 合併比率、合併比率の算定方法、及び合併により発行する株式の数

合併比率

株式会社A Qインタラクティブの株式1株に対して当社の普通株式7株、株式会社ライブウェアの株式1株に対して当社の普通株式6.2株を割当て交付いたしました。

合併交付金の額

該当事項はありません。

合併により発行した株式の種類及び数

普通株式 412,551株

(6) 相手会社の規模

名称	株式会社A Qインタラクティブ	株式会社ライブウェア
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
資本金 (千円)	3,200,571	250,000
売上高 (千円)	6,356,697	696,622
当期純利益 (千円)	651,201	48,917
総資産 (千円)	8,191,637	511,885
純資産 (千円)	6,947,559	440,980

(7) 合併の時期

合併の効力発生日 平成23年10月1日

2. 株式会社A Qインタラクティブ及び株式会社ライブウェアとの合併に伴うのれん又は負ののれんの金額、発生原因、会計処理

(1) 発生するのれん又は負ののれんの金額

現在精査中であります。

(2) 発生原因

合併に伴い発行した合併対価株式の時価による金額と株式会社A Qインタラクティブ及び株式会社ライブウェア両社の簿価を基に算定した株主資本の合併対価株式に相当する部分の金額との差額をのれん又は負ののれんとして認識する予定です。

(3) 会計処理

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 改正平成20年12月26日)及び、「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 最終改正平成20年12月26日)を適用しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月9日

株式会社マーベラスAQL

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 川 健 二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 河 合 宏 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マーベラスAQL（旧社名 株式会社マーベラスエンターテイメント）の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マーベラスAQL（旧社名 株式会社マーベラスエンターテイメント）及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成23年10月1日をもって、会社を存続会社、株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェアを消滅会社とする吸収合併をした。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

その他の事項

会社の平成23年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成22年11月9日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成23年6月23日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。